

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所外部評価委員会
健康・栄養研究分科会評価結果の概要

AI 栄養研究

- ・新規アプローチとして評価される。研究は端緒についたばかりであり、試行錯誤のようだが、研究計画をしっかりと立てて意味のあるアウトプットができるようにしてほしい。AI だからこそできる何か、データの収集方法も含めて、探り当てていただくよう期待している。
- ・フレイルの質問項目が60数個ではなく6項目に代表させることができる可能性が示されたのは、有益な成果と受け止めた。また、「フレイル」をキーワードとした文献抽出の類似検索は、一般的有効性が高そうで評価できる。
- ・定義が難しい日本食・和食について、特徴的な指標抽出に取り組まれており、今後の進展に期待する。

栄養疫学・食育研究部

- ・食生活・健康増進に関する行政貢献が多大である。
- ・国民健康・栄養調査の結果を利用した多くの学術発表や論文、SIP 食事調査など大変活発な優れた研究活動が行われている。外部資金の獲得が著しい。
- ・令和2年度の国民健康・栄養調査が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったが、インターネットの活用など幅広い視点から調査方法を検討していく時期に来ているのではないか。
- ・国民健康・栄養調査の結果を新たな介入へ結びつける活動が今後望まれる。
- ・食育研究は今後極めて重要である。適切な栄養摂取に関するコホート研究が組まれることなどを望む。

身体活動研究部

- ・例年通り、多くの質の高い論文の発表がなされており評価される。内容的にも社会的要請が高いものである。
- ・一方、成果が多すぎて、成果の検証が追い付いていない。確実な成果だけを発表する方法もある。
- ・柔軟性と高血圧症等、運動・体力と疾患との関連について、貴重で明確な研究成果が得られている。運動に関する標準プログラムに落とし込まれていることが評価される。

- ・腸内細菌の多数のサンプリングを元にした疾患との関連に関する研究が進んでいる。
- ・介護予防研究が所長直轄から移管され、盤石な前向き研究が行われている。
- ・細かい対応がなされておりデータとしての価値が高く、実際の現場においても利用しやすいと思われる。
- ・フレイルのバイオマーカーなど、それぞれに社会的な還元の可能性がわかりやすく、興味深い。

栄養・代謝研究部

- ・自衛官の栄養摂取基準の見直しを、コロナ禍の中、予定通り遂行できたことは、高く評価される。本研究により、運動、体力、業務形態、食事内容の関係が整理され、興味深いデータが公表されるのが待ち遠しい。
- ・生活リズムが疾病に関連するという一般的な仮説に関して栄養面での客観的なエビデンスを蓄積していることが評価される。
- ・今後、時間栄養学はヒトにおけるデータにフォーカスをあてて研究を展開することが望まれる。
- ・高齢者や日本人の健康寿命延伸に関する興味深い研究が行われており、評価できる。歩行補助具の影響などきめ細かな栄養データは療養に資するところが大きいと思った。
- ・COPD 患者のエネルギー必要量が 38kcal/kg/day であり、ガイドラインで推奨されているエネルギー必要量では不十分であることをきちんと伝達する役割を自覚すべきではないか。
- ・ヒューマンカロリメータに関する研究は大阪移転後に期待される。

臨床栄養研究部

- ・糞便中の水溶性代謝産物と疾病の関連について貴重な解析結果が得られている。経口吸着材 AST-120 の機能発現メカニズム解明に期待する。
- ・腸内細菌研究の目標、着地点が見えてこない。
- ・糖尿病患者のデータ解析は、発症予防等につながる研究であり、評価できる。
- ・糖尿病患者の睡眠効率の悪さが筋力低下に関連する傾向が示されたのは興味深い。
- ・糖尿病とサルコペニアの関連、食事パターンと睡眠状況の変化について、今後考察が深まることが期待される。
- ・順調に無難に成果は出ているが、以前の発表と比べるとトーンダウンの感のあるのは否めない。
- ・日本人の「臨床栄養」を研究する部として、中長期計画の終盤でもあり、何か

もう一步踏み込んだ知見を示していただきたい印象を受けた。

食品保健機能研究部

- ・買い上げ調査・成分調査などの法定業務、準法定業務が堅実に実施されており、研究との両立も成り立っている。
- ・カテキン成分の健康影響評価について知見の蓄積が進んでいる。研究対象をヒトに広げていけばさらに興味は高まると思われる。
- ・サプリメント成分についての肝臓毒性について、豊富な知見が得られている。過去の知見も含めて、総合的な情報提供が望まれる。
- ・サプリメントの肝障害の検討は、成分から始めるのではなく、サプリメント丸ごとを対象とするほうが効率的なのではないか。
- ・HFNet アクセス数が目標値を大きく越えて増加した。コロナ禍において、正しい情報を求めた人の期待に応える情報が提供できていることの表れといえる。
- ・限られた人員だと思うが、今後情報発信の工夫をするとさらによい。

国際栄養情報センター

- ・コロナ禍により国際交流の困難な中、WEB 活用などで WHO 協力センター活動等、多くの国際協力や研究活動を行い、業績を上げており評価できる。
- ・特に、招へい事業が論文発表につながっている点が秀逸と考える。
- ・生活習慣病に関する統計研究に関して、Nature 等インパクトファクタの高い原著論文が出されるなど、順調に研究が進捗している。
- ・幅広い解析がなされているが、メッセージ性がやや乏しいように思える。
- ・災害栄養については、データ分析の依頼を積極的に受けることによってエビデンス創生とアクションの両輪の揃った活動が出来ている。
- ・災害支援は、一見よく行っているようにも思えるが、そろそろ、なるほどそうかとうなずける成果が欲しい。
- ・コロナ禍での世界の栄養環境の変化の調査等、「国際戦略」にふさわしい活動を今後も期待する。